

とべバッタ



田島征三作
倍成社
税込価格 1,540円

バッタは天敵から身を守ろうと、草むらに身を潜めてびくびく暮らしていた。だがある日、バッタは逃げずに堂々と生きることを決意した。襲い掛かる蛇をへこまし、カマキリに体当たりし高みへと飛んでいく。絶体絶命の危機に陥った時、バッタ

が気付いたことは……。

バッタが四枚の翅を広げ自在に飛び続ける姿は雄々しく、前を向いて生きる強い意志と生命力に溢れている。自ら自身自身の生き方を変えようと必死なバッタの姿に、子どもは自分を重ね合わせて応援する。敵と睨み合う目力、やみくもに戦う激しい動きから、生物が自然界で生きぬく厳しさ、逞しさも伝わってくる。絵が全てをものがたる田島征三の世界。凝縮されたことはばも力強い。作家自身の命への思いが漲る代表作の一つ。絵に心を揺り動かされ、生きる勇氣と希望が湧いてくる。(R)

タンタンタンゴはパパふたり



ジャスティン・リチャードソン 文
ピーター・パーネル 文
ヘンリー・コール 絵
尾辻かな子、前田和夫 訳
ポット出版
税込価格 1,650円

アゴヒモペンギンのロイとシロは二羽とも男の子。泳ぐのも歌うのもいつも仲良く一緒に、いつしかお互いを意識し始め、カップルに。そんな二羽の關係に気付いた飼育員が男女のペアペンギンが育てられなかつた卵の一つを彼らに世話させよう

思い付く。こうして生まれたのが女の子ペンギンのタンゴだ。

ロイとシロが交代で卵を温め、力を合わせて育てる姿は他のペンギン一家と同じであり、タンゴも一緒に夜は三羽で寄り添いながら眠りにつく絵は愛に溢れた家族そのものだ。

この話がNYのセントラルパーク動物園の実話を基に書かれていると知ると驚くかもしれないが、どの世界にも様々な家族の形があることが子どもにも理解できる。そして、この本が人間関係の多様性を受入れ、選択肢は一つではないと言う考えを持つ一助になることを願う。(N)

日本子守唄集成



尾原昭夫 編著
柳原出版
税込価格 5,170円

子育ての経験者なら、学校で習った有名な子守唄の他に、簡単に十曲以上の子守唄を挙げる事ができるだろう。『おどま盆ぎり盆ぎり』の五木の子守唄とか、岡山の『ねんねこさっしやりませ』など、TV番組や隣の小母さんの鼻歌で、知らず知ら

ずのうちに覚えて、我が子に聞かせたりしている。海外の国々にも、土地に準じた子守唄があるのだろう。

この本は日本全国から二八六曲の子守唄を集め、各々楽譜と解説を添えて掲載している。目次が索引のようになっていて、歌いはじめの歌詞が出てくる事が多いので、子どもも大人もうる覚えの歌詞やメロディーを確認して楽しみ、歌う事もできる。グラビア頁の他にも錦絵や夢路の絵が添えられ、歌詞や解説からこぼれ出る哀しい物語に心を惹かれる。海外の若者には是非読んで貰いたい。図書館にも置きたい一冊。(K)

「母の友」特選童話集
こどもに聞かせる一日一話

福音館書店「母の友」編集部 編著
福音館書店
税込価格 1,650円

お話もある。日本の民話や外国の昔話もあって、大笑いしたり、心が温かくなったり、ちよつぱり怖くてドキドキしたり。一日一話なのに、つい二、三話読みたくなる。

ある日の一話『ぐるんばのたんじようび』では、誕生日も忘れて忙しく働くぐるんばのために子ども達も内緒でサーカスをプレゼントする。『ぐりとぐら』や『だるまちゃん』の主人公が登場するお話もあれば、泥棒、枕、ピーナッツ等が主人公の

福音館書店の月刊誌『母の友』に掲載されたお話の中から、三十話、教訓的な話よりも心を動かす楽しい話を一冊の本にした。現在はテレビやインターネットによる視覚の刺激が多いが、そんな時代だからこそ、日本語の美しい響きに耳を傾け、耳から入ることばだけで情景を想像して、お話を楽しむ時間が、とても大切だと思う。(E)